

## 発問例

### (前時の復習として)

- 1 見る側の登場人物は？  
→光源氏 惟光
- 2 見られる側の登場人物を3つのグループに分けて挙げると？  
→A 尼  
B 清げなる大人 少納言の乳母  
C 童べ 犬君・女子

### (場面設定に注意して第一・第二段落を音読する)

### (場面設定の大枠を理解する)

- 3 5 W 1 Hとは？
- 4 冒頭部分(第一文)から、見ている光源氏たちに関する5 W 1 Hを(こじつけもあるが)見つけ出すと？  
→ where かの小柴垣  
when 夕暮れ  
what 立ち出で給ふ→のぞき給へば  
who 光源氏(惟光)  
why 日もいと長きにつれづれなれば  
how いたう霞みたるにまぎれて
- 5 季節はいつ？ 春の夕暮れのイメージは？  
→春 ゆっくりと楽しむ夕暮れ
- 6 同じく、第二文から見られている側について5 W 1 Hを整理すると？  
→ where この西面  
when (夕暮れ)  
what 行ふ 花奉るめり  
who 尼  
why (夕暮れ)  
how 持仏据ゑ奉りて
- 7 「行ふ」の意味は？ 「持仏据ゑ奉りて」から敬語を抜き出し、敬意を考えると？  
→勤行する。 奉り=謙譲語の補助動詞、持仏に対する敬意
- 8 なぜ「西面」の部屋で勤行するのか？  
→西方浄土(阿弥陀如来がすむ極楽浄土)

### (場面設定の妙を考える)

- 9 教科書の挿絵から場面を具体的に考えるが、夕暮れだから、69ページの挿絵でいうと、太陽はどこにある？  
→源氏の背中側



- 10 源氏から尼君たちの姿は見えるか、見えないか。  
→傾いた太陽の光がスポットライトのような役割を果たし、部屋の奥までよく見える。
- 11 尼君たちから源氏の姿は見えるか、見えないか。  
→傾いた太陽の光が逆光となって、覗いている側は見えにくくなっている。

- 12 垣間見に有利な条件は他に何がある？  
→（自然）かすみ  
（人事）花奉る

#### （垣間見に伴う表現、推定の助動詞を理解する）

- 13 第一段落の五つの文の文末のうち、垣間見であることがよく分かるものはどれか。一文節で抜き出しなさい。  
→「奉るめり」「見えず」「見給ふ」
- 14 推定の助動詞を他に二つ挙げなさい。  
→めり（視覚による推定）  
なり（聴覚による推定）  
らし（根拠のある推定）

#### （第一段落を現代語訳する）

- 15 （二文目まで訳した後）源氏が垣間見をする時、どのようなことを期待したと想像されるか？  
→若い高貴な女性がいること
- 16 実際に目にしたのは？  
→年寄りの尼
- 17 「なりけり」の「けり」の意味は？  
→詠嘆
- 18 この源氏の詠嘆（気づいた感動）の内容を説明すると？  
→お目当ての女性ではなく、高齢な尼でがっかりした。
- 19 （三文目を訳した後）「めり」の意味は？  
→視覚による推定。ここは垣間見していることを前提に、「花を差し上げるの見える」くらいの訳が自然。
- 20 （五文目を訳した後）源氏は尼を見たことがなく、新鮮な驚きを感じているが、そのことが分かる部分を抜き出ささい。  
→なかなか長きよりもこよなう今めかしきものかな

#### （第二段落を現代語訳する）

- 21 （第二段落を訳した後）なぜ、源氏は一人の女子に注目することになったと思うか。抜き出ささい。  
→走り来る（＊源氏物語で唯一の走る姫君）